

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	74	実施計画番号	28
事務事業名	十和田市寿大学		
個別事業名		事業開始年度	昭和46年度
担当課名	中央公民館	事務の種類	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	
背景や経緯等	公民館の役割は、地域の拠点となって社会参加・参画を促すことにある。この事を踏まえ、高齢者の生きがいづくり対策として「学ぶ」「語らう」「ふれあう」ということができる場として寿大学を開講し、多種多様な学習内容を提供するなど生涯学習の推進に努める。		
事務事業の目的	高齢社会に対応し、高齢者が学習活動を通じて社会的能力を高め、心豊かで生きがいのある人生の創造と、その学習成果を社会参加活動に生かす。		
実施状況	概ね60歳以上の高齢者を対象に開講し、運営委員会を組織し野外学習や奉仕活動・自主クラブ活動などの学習計画を作成し、4月から2月までに年間20回の学習を実施した。		

【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	50	50	50
	人件費(千円)	1,800	1,800	1,800
正職員以外	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	1	1	1
期間業務職員	人件費(千円)	9	9	9

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	22年度実績	23年度実績	24年度計画
	195	259	386
うち一般財源	195	259	386
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①		活動回数			
	計算式等		単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
			回	20	20	20
成果指標	活動指標名②					
	計算式等		単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
成果指標	成果指標名①		参加者延べ数			
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
		人	目標値	1,300	1,200	1,050
			実績値	1,155	1,024	
			達成度(%)	89%	85%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	74
計画No	28

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	B	1	3	存在意義の見直しの余地 1 / 4		
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		受講生が年々高齢となり参加者が少なくなっているが、高齢者の生きがいづくりのための講座であり、民間とは競合しない。		
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	4	成果向上の余地 2 / 6		
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1		概ね60歳以上を対象にしているが、新規の参加者が少なく、全体として減少傾向である。このため、参加者の確保が課題であることから、学習回数や学習内容の見直しを検討する。		
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1				
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2	6	コスト削減の余地 0 / 6		
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		無料で開催できる県・市の出前講座等を利用するなど、経費の削減に努めている。		
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2				
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4		
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		十和田市に在住し、中央公民館に通館できる高齢者であれば誰でも参加できるので、公平である。		
					現在の適性	17 / 20	改善の余地	3 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

有効性を改善して継続

方向性の理由

寿大学は多種多様な学習内容を展開し、受講者の生きがいづくりに結び付くよう取り組んでいるが、受講者実数は若干ではあるが減少傾向である。そのため、平成24年度は事業全般についてアンケート調査を実施。現在内容を分析しているが、今年度中に運営委員会にはかりながら改善に努め継続する。(参加者実数H22:88名 H23:81名)

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

平成24年度は、新しい取り組みとしてALT(外国語指導助手)の講話等を実施したが大変好評であったため、毎年創意・工夫し事業展開に努める。特に学習回数、学習内容の見直しを検討し、受講者の確保に結び付ける。